

11. 橋梁下部工事

11-1 橋台工

(1) 基礎の出来形確認状況



撮影方法

- 出来形全体状況がわかるように撮影する。
- 長大な物は起終点にポールなどを立てて、さらに出来形寸法の確認できるように目盛のアップも撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

留意事項

- リボンロッドの起終点を反対にし、手前に実測寸法が目盛がくるようにする。
 - 測定範囲の起終点を確認できるようにスタッフ、又はポールを立てる。
- △目盛がわかるように実測寸法のアップも撮影する。

(2) 幅の測定状況



撮影方法

- 型枠脱型後埋戻し前に、幅・高さ・長さが確認できるように撮影する。
- 測定箇所及び橋台全体がわかるように撮影する。

留意事項

- リボンロッドを立てて、目盛を正面に向ける。
- 幅の正面から撮影する。
- 測定箇所にあて木などをおき、実測寸法がわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

11-1 橋台工

(3) 高さの測定状況



留意事項

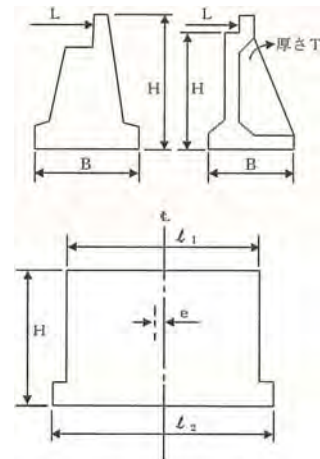
- 測定箇所にあて木などをあて、実測寸法がわかるようにする。
- リボンロッドを用いて、正面から撮影する。
- 黒板に略図を記入し、測定箇所を赤で表示する。

撮影方法

- 型枠取外し後、幅・長さ・高さが確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を赤で表示する。



11-2 橋脚工（張出式・重力式・半重力式）

（1）幅の測定状況



留意事項

- 起点・終点が確認できないので、アングルを工夫する。
- 黒板を入れて撮影する。
- △ アングルがとれない場合、ポールなどを用いて、起点・終点を示して撮影し、さらに実測寸法の目盛をアップで撮影する。

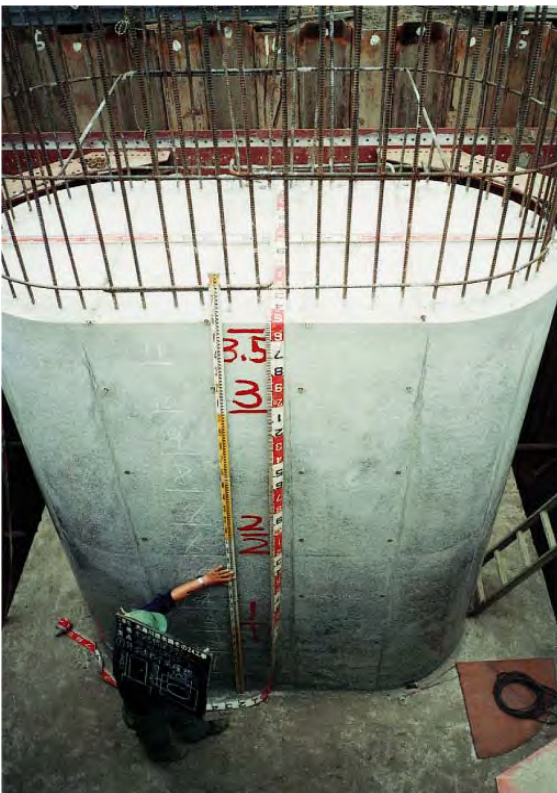
撮影方法

- 測定部の位置、形状が確認できるように撮影する。
- 打設後の出来形寸法が確認できるように撮影する。
- 測定箇所の起点・終点が見えるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を赤で記入する。

（2）高さの測定状況



撮影方法

- 出来形寸法が確認できるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

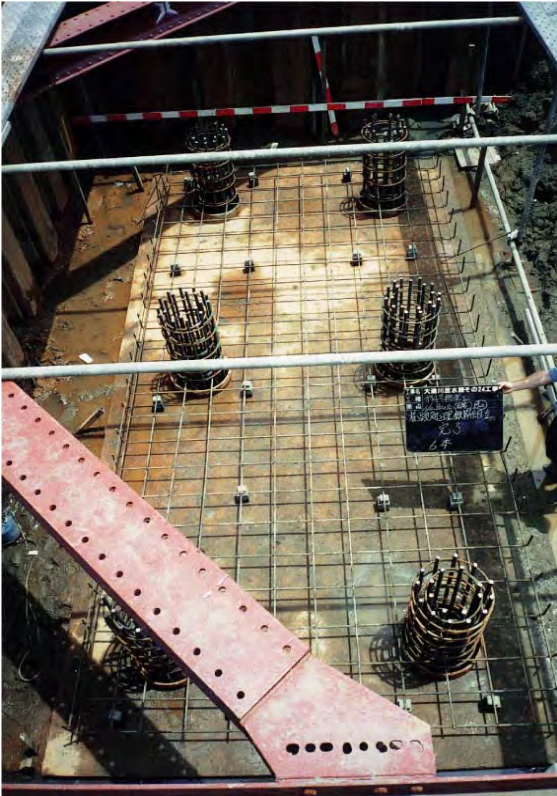
- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を赤で表示する。

留意事項

- 実測寸法が確認しやすいようにマーキングして撮影している。
- カメラの位置を下げ、正面から撮影する。
- リボンロッドの中間を使用せず、下部にゼロ点をあわせて、上部の測定箇所にあて木などをあて、目盛が見えるようにする。

11-2 橋脚工（張出式・重力式・半重力式）

（3）基礎の施工状況



撮影方法

- 全体本数が確認できるアングルで撮影する。
- 杭にマーキングして、杭の配置がわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 杭の本数・規格・配置を記入する。

留意事項

- 一部杭がH鋼に隠れているが、全本数がどうにか確認できる。
- 黒板に基礎の略図を記入し、杭の本数、配置を表示する。
- 黒板を手前におき記入内容がわかるようにする。
- 杭にマーキングする。
- カメラ位置、カメラアングルを変え、杭の全体本数が写るように工夫する。

（4）出来形測定状況



撮影方法

- 打設後の出来形寸法が確認できるように撮影する。
- 測定位置にマーキングする。
- 測定箇所がわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 構造物仕様
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を赤で表示する。

留意事項

- あて木をあてているが、わかりにくいので、あて木をスタッフの前に出して、起終点をわかりやすくする。
- リボンロッドなど幅の広いものを用い、目盛がわかるようにする。
- 黒板が見づらいので手前において撮影する。